

# 日本語接尾辞「-っぽい」と英語接尾辞「-ish」の類似と相違について

梅原 敏弘

英語の childish は日本語の「子供っぽい」に相当する。また amateurish は「素人っぽい」、waterish は「水っぽい」という日本語の慣用表現に一致する。このような例を見れば、英語の接尾辞-ish と日本語の接尾辞「-っぽい」との間に何らかの相関関係が成り立つともうと考へても不思議ではないであろう。だが一方で、両者が一致しない場合も少なからずある。例えば bookish を\*「本っぽい」と言ったり、buckish (<牡鹿のように>性急な) を\*「鹿っぽい」と言ったりすることは出来ない。また「素人っぽい」には amateurish という対応表現があるのに対し「玄人っぽい」には対応する-ish 表現がない。また動詞に「-っぽい」がついた「忘れっぽい」にも対応する-ish 表現はない。こうした点を考へ合わせると、その相関関係は限定的なものであるということは容易に想像できる。これは、両言語の語族の違いを考へに入れば当然のことであろう。しかし限定的であるにせよ、英語の接尾辞-ish と日本語の接尾辞「-っぽい」との間には、ある程度の相関関係があることも確かである。そこで本稿では、両者の間にどの程度の相関関係があるのか、また相関関係が成り立つためにはどのような条件が必要とされるのかを、両接尾辞間の類似点と相違点及びおのおのの接尾辞としての特質にふれながら、探っていくことにする。

先ず、両接尾辞が、辞書にどのように記載されているかを見てみよう。三省堂のスーパー大辞林と岩波の広辞苑の「-っぽい」の記述は以下の通りである。

[スーパー大辞林] の「-っぽい」の記述

ぽ・い (接尾)

〔形容詞型活用〕

名詞、動詞の連用形などに付いて、そのような状態を帯びている意を表す。多く上の語との間に促音が入って、「っぽい」の形で用いる。…の傾向が強い。いかにも…と

いう感じがする。「あきっー・い」「赤っー・い」「やすっー・い」「ほこりっー・い」  
「子供っー・い」

[広辞苑] の「-っばい」の記述

ば・い

ニ接尾ニ体言、動詞の連用形に付いて形容詞を作る。…の傾きがある。…しやすい。  
「男っー・い」「忘れっー・い」など、上の語が促音化する。

Random House Unabridged Dictionary の「-ish」の記述は下記の通りである。

1. a suffix used to form adjectives from nouns, with the sense of “belonging to” (British; Danish; English; Spanish); “after the manner of,” “having the characteristics of,” “like” (babyish; girlish; mulish); “addicted to,” “inclined or tending to” (bookish; freakish); “near or about” (fiftyish; sevenish).
2. a suffix used to form adjectives from other adjectives, with the sense of “somewhat,” “rather” (oldish; reddish; sweetish). [ME; OE -isc; c. G -isch, Goth -isks, Gk -iskos; akin to -ES]

RHUD の翻訳版である小学館ランダムハウス英語辞典 CD-ROM 版の「-ish」の記述は、ほぼ RHUD と同じである。

-ish *suf.*

【1】名詞につけて形容詞をつくる。

- (1) 特に国名や地域名につけて …に属する:

*British, Danish, English, Spanish.*

- (2) …流[風]の、…の性質を持つ、…のような:

*babyish, girlish, mulish.*

- (3) …に夢中の、…の傾向がある:

*bookish, freakish.*

- (4) 年齢・時刻などを表す数詞について およそ…くらい:

fiftyish, sevenish:

I'll be there eightish. 私は8時ごろそこにいます。

【2】形容詞につけて …っぽい(somewhat), …がかった(rather) : oldish, reddish, sweetish.

これらの辞書の定義によると、-ishには、BritishやSpanishのような国名または地名形容詞を作る機能があり、また年齢・時刻を表す数詞につけて「およそ…くらい」という意味を表す働きがあるが、「-っぽい」にはそうした用法はない。両者に共通なのは、「-っぽい」の「…の傾向が強い。いかにも…という感じがする。」「…の傾きがある。…しやすい。」と、-ishの「(2)…流[風]の、…の性質を持つ、…のような : babyish, girlish, mulish. (3)…に夢中の、…の傾向がある : bookish, freakish.」と「【2】形容詞につけて …っぽい (somewhat), …がかった (rather): oldish, reddish, sweetish」の部分であろう。

この部分の意味は、一つには、「基体の性質を帯びている、またはプロトタイプとしての基体に近い」というように考えられる<sup>(1)</sup>。例えば、「子供っぽい」、childishであれば、「子供のような性質を持った」、「子供に近い」という意味になる。また更には、基体が行為を暗示する時には「基体が表す行為をする傾向にある」というようにも解釈できよう。同じく「子供っぽい」を例にとれば、「子供がするような行為をしがちな」という意味にもなりうる。「-っぽい」と-ishにはこのような意味的に共通の要素があるからこそ相関関係が成り立ちうるのだが、前述したように相関関係が成り立たない事例も多い。そこで実例を通して両者の類似と差異について更に検討してみることになろう。

「-っぽい」の場合、-ishに比べて、辞書に見出し語として登録されている数は極端に少ない。-ishが500を超えるのに対し<sup>(2)</sup>、スーパー大辞林に登録されているのは下記の31語に過ぎない。この点については、後で問題にすることにして、先ずは見出し語として登録された「-っぽい」がどのような基体と結びつくのかを基体の品詞を基準に分類し、この点に関して-ishとの類似と相違を探ってみよう。

「-っぽい」の基体が名詞：

婀娜っぽい、哀れっぽい、色っぽい、大人っぽい、気障っぽい、愚痴っぽい、  
子供っぽい、湿気っぽい、俗っぽい、艶っぽい、熱っぽい、埃っぽい、骨っぽい、  
水っぽい、理屈っぽい

「-っぽい」の基体が動詞：

飽きっぽい、怒りっぽい、湿っぽい、惚れっぽい、咽っぽい、忘れっぽい

「-っぽい」の基体が形容詞：

青っぽい、荒っぽい、粗っぽい、辛っぽい、黒っぽい、白っぽい、茶っぽい、  
苦っぽい、安っぽい

-ish に関しては「接尾辞-ish の機能と生産性について」<sup>③</sup>で分析してあるので、その結果をここに引用し、「-っぽい」の場合と比較・対照してみる。

「-ish」の基体の品詞	名詞	形容詞	副詞	動詞	接続詞	不明	合計
語数	323	122	3	3	1	9	461
比率 (%)	70	26.4	0.7	0.7	0.2	2.0	100

「-っぽい」の基体の品詞	名詞	形容詞	副詞	動詞	接続詞	不明	合計
語数	15	12	0	6	0	0	33
比率 (%)	45.5	36.3	0	18.2	0	0	100

「-っぽい」の辞書への見出し語化には若干の問題がある。一つは、-ish の場合は基体と結びつく一つの語として認知され、語彙化されやすいのに対し、「-っぽい」の場合は、慣用化して語として認知されるものと、形態的緊密性に乏しく極端に言えばその場限りの基体との結びつきと考えられるものの二つに分かれ、後者の例も数多く考えられるからである。「色っぽい」、「子供っぽい」等は前者の例で、慣用化して辞書に見出し語として登録されている。ところが「あの人はホームレスっぽい」、「先生っぽい」、「今のボール、アウトっぽかったね」も可能な表現である。しかし、これらは辞書の見出し語扱いを受けるほど語彙化しているわけではない。したがって辞書に登

録されている「-っぽい」語は可能な「-っぽい」語のごく一部であり、その場限りの結合からある程度慣用的なものまで、辞書に登録されていない「-っぽい」語がその他数多く存在することは疑いを入れない。それ故、上記の「-っぽい」の表は不完全なものであり、「-っぽい」の生産性に関してはこの表だけをもとに論ずることは出来ない。ただし、この表から推察できることは、両接尾辞間に結びつく基体の品詞にズレがあるということである。-ishの場合、動詞と結びつく例は、全体の0.7%で、極端に言えば動詞との結合は殆ど無いといってよい。これに対し「-っぽい」の場合、33例中6例と、動詞との結びつきが全体の20%近くを占めている。「-っぽい」が動詞と結びつく例として、先に「飽きっぽい」、「怒りっぽい」、「湿っぽい」、「惚れっぽい」、「咽っぽい」、「忘れっぽい」をあげておいたが、これらに対応する動詞起源の-ish表現は存在しない。「忘れっぽい」は forgetful であって \*forgettish という単語は存在しない。結びつく基体の品詞の違いが対応する表現の有無に関係していると言ってよいであろう。意味的にも、「-っぽい」が動詞と結びつく場合は、殆ど「...しがちである、...する傾向にある」の意味となり、「...の性質を帯びている、...に近い」の意味ではない。この点に関しては、形態的にも意味的にも、両接尾辞の違いが明確に現れる。

このように、基体との結びつきに関しては、「-っぽい」と-ishでは動詞と結びつくかどうか大きな相違点となるが、両者とも名詞と形容詞に結びつくことが多いという点は共通している。特に、色彩形容詞に関しては相関関係が高いと言えよう。冒頭に紹介したように、名詞の場合、childishが「子供っぽい」、amateurishが「素人っぽい」のように一致するものもあるが、bookishキ\*本っぽい、selfishキ\*利己っぽい、埃っぽいキ\*dustish、大人っぽいキ\*adultishのように一致しないものが少なからずある。ところが、色彩語は下記の例からも明らかのように、日本語接尾辞「-っぽい」と英語接尾辞「-ish」との間にはほぼ完全な相関関係が成り立つ。

青っぽい	greenish, bluish
赤っぽい	reddish
白っぽい	whitish
黒っぽい	blackish

黄色っぽい	yellowish
茶色っぽい	brownish
灰色っぽい	grayish

ただし、日本語の「-っぽい」色彩語には含蓄的意味（青っぽい＝「未熟な」、黒っぽい＝「玄人らしい」）が含まれるが、「-ish」色彩語にはそういう含蓄的意味は含まれず、「-ish」は元の色彩語の意味を和らげる緩衝語的な役割を果たしているに過ぎない。「青っぽい」を例にとると、「青っぽい」には「未熟な」というマイナス評価の意味があるが、greenishにはそういう意味はない。ただ単に「緑がかった」という意味に過ぎない。青っぽい＝「未熟な」の意味は‘a green worker’（未熟な労働者）のようにgreenで表される。英語では、色彩語に関しては、-ish色彩語に含蓄的意味が含まれることはなく、色彩語そのものに含蓄的意味が含まれるのである。

このような色彩形容詞だけではなく、他の形容詞起源の「-っぽい」語も、-ish表現と比較的対応しやすい。例えば、「粗っぽい」はroughish、「苦っぽい」はbitterish、「安っぽい」はcheapishといった具合である。しかしながら、この点に関して注意しなければならないのは、-ishの基体が形容詞の場合、-ishには‘somewhat’（やや、幾分）という意味を基体に付け加え、基体の属性を幾分弱める機能しかなく、基体の属性を強調したりする機能はないことである。形容詞が基体の場合、純粹に緩衝語的機能しかない-ish接尾辞に対し、「-っぽい」には緩衝語的接尾辞の機能の他、基体の形容詞の属性を強めたり、比喩的に拡張したりする機能がある。例えば、大辞林の「安っぽい」の語義の説明は、以下のようにになっている。

やすっぽい [4] 【安っぽい】（形）

- (1) いかにも安物に見える。上等でない。「一・い品物」
- (2) 品格がない。品がない。「そんな一・い考えはもっていない」

[派生] 一さ（名）

(1)の語義の説明からは、\*「やや安い」という緩衝語的意味よりも、「いかにも安い」という幾分強められた意味が感じられる。(2)の場合は、「品を欠いた」という比

喩的に拡張された意味に転化している。このように考えると、一見「安っぽい」= cheapish という等式は形式的には成り立つように見えても、その意味内容と使用頻度からすると、実質的な等式関係にあるとは言い難くなる。OED によれば cheapish の意味は‘somewhat cheap’であり、比喩的な意味もないし、cheapish という単語自体、アメリカ系の辞書の Webster や Random House Unabridged Dictionary には見出し語として登録すらされていない。使用頻度からすると「安っぽい」と cheapish との間には大きな差があると推測しても間違いではなかろう。わが国の代表的な和英辞典には、以下のように、「安っぽい」に相当する語として cheapish を他の訳語と共に記載してあるものもあるが、そうでないものもある。このことも、cheapish の使用頻度が高くはなく、「安っぽい」の意味を英語で表すときには、他の語のほうが多く使われる確率が高いことを暗に示していると言えよう。

[研究者和英大辞典]

やすっぽい 安っぽい

a. 《S》 cheap (-looking) ; cheapish; mean; insignificant;

[安ぴかの] tawdry; gaudy; flashy; gimcrack (y) ; gingerbread.

安っぽい品 trumpery; finery.

皆安っぽい品物だ。 These goods are not up to much.

[NEW 斎藤和英大辞典]

やすっぽい [安っぽい]

〈形〉 Cheap ; trashy ; tawdry ; worthless ; insignificant

◆安っぽい男だ He is a cheap-looking man—an insignificant-looking man.

◆人を安っぽく見るものでない You should not hold men cheap.

◆安っぽい品ばかりだ There are nothing but trashy articles.

◆安っぽい装飾はかえって無い方が好い Tawdry ornaments are better done without.

◆安っぽい人間だ He is a worthless man—an insignificant man.

「粗っぽい」と roughish、「苦っぽい」と bitterish 等、他の形容詞起源の「-っぽい」語も事情は同じで、形式的には対応しても実質的な対応関係にあるとは言い難い。

次に基体が名詞の場合はどうであろうか。結びつく基体としては名詞が一番多いのは両接尾辞に共通している。-ish の場合は全体の70%（461例中323例）が名詞を基体になっている。「-っぽい」の場合は、スーパー大辞林で見出し語化しているもののうち、動詞は6、形容詞は12、名詞は15となっており、圧倒的多数とは言えないまでも、名詞を基体にしたものが最も多い。「-っぽい」は、前述したように見出し語化していないものも多い。いくつか例をあげてみる。

いたずらっぽい、少年っぽい、素人っぽい、女っぽい、男っぽい、夏っぽい、粉っぽい、先生っぽい、不良っぽい、甘っぽい、銀行員っぽい、商売人っぽい、運動選手っぽい

このうち、「甘っぽい」（基体は[甘い]）以外は、全て名詞を基体になっているものばかりである。従って「-っぽい」の場合も、基体は名詞が中心と考えて良いだろう。

-ish の場合は、基体が形容詞であるか名詞であるかによって、その機能が異ってくる。Quirk 編の *A Comprehensive Grammar of the English Language* では、-ish の定義は、名詞起源の場合は “somewhat like”、形容詞起源の場合は “somewhat” と記されている<sup>(4)</sup>。この定義では、-ish の機能は基体が名詞の場合と形容詞の場合と殆ど変わりがないような印象を与える。これでは両者の表面的な意味の共通性のみしか伝わらず、機能的な違いが明らかにならない。単に緩衝語的な機能をはたすに過ぎない形容詞起源の-ish と違い、名詞起源の-ish の場合は、名詞の持つマイナスの属性と結びつき、比喩的な派生語を形成する。例えば、schoolteacher（学校教師）に-ish をつけて schoolteacherish とすると、主観的価値判断を含んだ「(教師のように) こうるさい」と言う意味に転化してしまう。girl のように girlish となると「少女のような」という主観的価値判断を含まない中立的な意味になる場合もあるが、大半の名詞起源の-ish 派生語は主観的価値判断を含んだ、しかもマイナス評価の価値判断を含んだものになる。拙論「接尾辞-ish の機能と生産性について」での調査結果によると、名詞起源の-ish 派生語323のうち、282が主観的価値判断を伴う語であり、そのうちマ



マイナス評価の対象となるものは270を数える<sup>6)</sup>。名詞起源の-ish 派生語全体のうち、じつに85%が何らかの形でその中にマイナス評価の属性を持った語ということになる。マイナス評価の対象になるのは、「愚かさ」、「愚鈍」の類、「野暮、無骨さ」、「下品、野卑、粗野、無教養」、「四角四面」、「虚偽、みせかけ、インチキ」、「見栄、気取り」、「高慢、自慢」、「尊大さ」、「身勝手、利己主義」、「幼稚さ」、「未熟さ」、「へつらい、追従」、「奇人、変人、風変わり」、「頑固さ」、「荒々しさ、乱暴」、「悪」、「醜くさ」、等の様々な好ましからぬ人間の属性である。こうした属性が、多種多様な名詞に-ish が付け加えられることによって、比喩的に表現される。

このように名詞起源の-ish 派生語は、意味的に一定の方向性を持っていることは明らかであるが、「-っぽい」の場合はどうであろうか。まず、基体の品詞の種類は問わず、先に上げた見出し語化されている「-っぽい」表現と後から付け加えた「-っぽい」表現に限って、主観的価値判断という観点から分類してみる。

#### 見出し語化されている「-っぽい」表現

基体が名詞：

[マイナス評価] 哀れっぽい、気障っぽい、愚痴っぽい、子供っぽい、湿気っぽい、俗っぽい、熱っぽい、埃っぽい、骨っぽい、水っぽい、理屈っぽい

[プラス評価] 婀娜っぽい、色っぽい、艶っぽい、骨っぽい、熱っぽい

[中立評価] 大人っぽい、

基体が動詞：

[マイナス評価] 飽きっぽい、怒りっぽい、湿っぽい、咽っぽい、忘れっぽい

[プラス評価]

[中立評価] 惚れっぽい、湿っぽい

基体が形容詞：

[マイナス評価] 青っぽい、荒っぽい、粗っぽい、辛っぽい、安っぽい、苦っぽい、

[プラス評価] 黒っぽい

[中立評価] 青っぽい、黒っぽい、白っぽい、茶っぽい、

### 見出し語化されていない「-っぽい」表現

- [マイナス評価] いたずらっぽい、少年っぽい、素人っぽい、女っぽい、男っぽい、粉っぽい、不良っぽい、
- [プラス評価] 玄人っぽい、
- [中立評価] 夏っぽい、先生っぽい、銀行員っぽい、商売人っぽい、外国人っぽい

基体が形容詞のときには主観的価値判断は中立、名詞のときにはその大半がマイナス評価というように、-ish 派生語の場合、品詞によって主観的価値判断の方向性がかなりはっきり区別されているのに対し、「-っぽい」派生語は、品詞による主観的価値判断の区別はない。たしかに、-ish 派生語と同じく、マイナス評価の「-っぽい」派生語の数はプラス評価、中立評価に比べれば多いが、-ish 派生語とは違い、「-っぽい」派生語は名詞だけではなく、形容詞、動詞が基体であってもマイナス評価の対象となる。

また、「-っぽい」派生語には、「夏っぽい」のように中立評価に分類される語が少なからずある。加えて、「熱っぽい（やや熱がある／一生懸命な）、「湿っぽい（やや湿った／陰気な）「青っぽい（やや青い／未熟な）のようにマイナス評価と中立評価もしくはプラス評価の両方にまたがるものもある。これは、-ish が、名詞と結びつくときにもっぱら基体の名詞が持つマイナス評価の対象となる属性を引き出し、それを比喩的に表現するとことをその主たる機能としているのに対し、「-っぽい」は、プラス、マイナス、中立の区別なしに、どんな属性のものとも結びつくということを意味している。英語の場合は、どちらかと言うと、基体が名詞の場合には、マイナス評価のものは-ish (childish) で、プラス評価もしくは中立評価のものは-like (childlike), -ly (manly) で表現され、接尾辞による主観的価値判断の役割がはっきり分かれている。それに対し、「-っぽい」は、それ自体、プラス・マイナスの主観的価値判断の役割を担っているわけではなく、結びつく基体の属性如何によってプラスの表現になったり、マイナスの表現になったりするのである。-ish は主としてマイナスの属性としか結びつかないので、「-っぽい」がプラスもしくは中立の属性と結びつくときには、それに対応する-ish 表現はないということになる。プラス評価の「玄人っぽい」、「熱っ

っぽい」、「骨っぽい」等の-ish 対応表現がないのはこうした事情によるものと考えられる<sup>6)</sup>。

最後に、「-っぽい」派生語と-ish 派生語の違いを、接尾辞が結びつく基体の直接的意味、周遍的意味及びその比喩性という観点からみてみたい。冒頭に述べたように英語の childish は日本語の「子供っぽい」に、また amateurish は「素人っぽい」に、waterish は「水っぽい」という日本語に相当する。これらは、比較的基体の属性がプロトタイプに近く、直接的である。子供=child は「幼稚」、素人=amateur は「未熟」、水=water は「水っぽい」というマイナスの属性はプロトタイプ的で日英双方に共通である。「-っぽい」派生語と-ish 派生語はこのような場合には一致しやすい。ところが bookish の場合はどうであろうか？ \*「本っぽい」とは言えない。「本」の持つ属性「教養」、「知識」、「学問」、「読書」等に比べれば「本を読んでばかりいる堅物の」とか「堅苦しい」という属性はプロトタイプのというよりかなり周遍的・間接的意味と考えられる。こういう場合には一致しにくい。-ish には基体の中に隠れているマイナスの属性を引きずり出し、語彙化してしまうという特性があり、プロトタイプからかなり離れたもの、日本人の感覚からは想像できないようなものまでも-ish 表現の対象にしてしまう。例えば、peacockish（＜孔雀のように＞見栄を張る）や scarecrowish（＜案山子のように＞やせこけた）、blockish（＜塊のように＞鈍い、愚鈍な）等はその良い例である。ところが、「-っぽい」場合は、主観的価値判断の如何を問わず、基体のプロトタイプの意味、もしくはプロトタイプに近い周遍的意味と専ら結合する。「素人っぽい」の「素人」は未熟さを、「理屈っぽい」は理屈の多さを、「怒りっぽい」は「怒り」をほぼ直接表現する。「女っぽい」でも「女の持つ特性をもっている、女のような」という意味で直接的な表現である。「-っぽい」の場合はプロトタイプからかけ離れた周遍的意味と結びつくことはない。従って、そういう場合には「-っぽい」と「-ish」は一致しない可能性が高くなる。

直接性、間接性と密接に関連する比喩性という観点からも両接尾辞の性格の違いを説明できよう。-ish 派生語は「-っぽい」派生語に比べその比喩的度合いは高い。peacock（孔雀）で「見栄を張る」、block（塊）で「愚鈍さ」を表現したり、はなはだ暗喩的である<sup>7)</sup>。それに対し、「-っぽい」派生語は、「子供っぽい」、「安っぽい」、「飽きっぽい」のようにその比喩的度合いは低く、直喩的である。「夏っぽい」のよう

に比喩の度合いが比較的低い時は summerish のように両接尾辞が一致することもあるが、liverish「肝臓病の、気難しい」のように比喩性が高くなると\*「肝臓っぽい」のような表現は不可能となる。

以上、「-っぽい」と「-ish」の類似と相違について検討してきたが、その結果をまとめてみよう。両接尾辞に相関関係が認められるのは、共通の意味素性として「基体の性質を帯びている、またはプロトタイプとしての基体に近い」もしくは「基体が表す行為をする傾向にある」があるからであるが、これだけでは不十分である。両者の相関関係が成立するためには、さらにこの共通の意味素性以外の要素も満たされる必要がある。それらは各々の接尾辞としての特性に関係してくる。第一の要素は結びつく基体の品詞である。「-っぽい」は動詞を基体にすることができるが、「-ish」はできない。従って、結びつく基体の品詞は動詞以外の名詞もしくは形容詞でなければならない。第二の要素は「主観的価値判断」である。「-ish」が名詞と結びつくときは、名詞のもつ「derogatory な意味成分」ともっばら結びつき、マイナスの主観的価値判断を含んだ表現となるのが大半であるのに対し、「-っぽい」は、基体の名詞の意味成分がプラスであろうとマイナスであろうともしくは中立であろうと、種類を問わず結びつく。従って、「-っぽい」がマイナスの意味成分と結びつくときにのみ、両接尾辞の表現が一致することになる。「素人っぽい」には amateurish という -ish 対応表現があるのに「玄人っぽい」に -ish 対応表現がないのも、「玄人っぽい」がプラスの意味成分を持っているからである。基体が形容詞の場合は、「-ish」は中立的な意味しかもたない。それに対し、「-っぽい」は「安っぽい」に代表されるようにマイナスの価値判断を表す場合もある。それ故、「-っぽい」が中立の意味を表す場合にのみ一致する可能性が出てくる。第三の要素は、結びつく基体の意味成分の直接性・間接性もしくは比喩性である。「-っぽい」がもっばら「子供っぽい」、「夏っぽい」に代表されるように基体の直接的意味成分とのみ結びつくのに対し、「-ish」は childish のように直接的意味成分とだけではなく、peacockish のように「孔雀の示す派手な特性」という間接的な意味成分と結びつくことがよくある。その場合には一致しにくくなる。このように両接尾辞の表現の直接性・比喩性の違いが相関関係に大きく関わってくる。

「-っぽい」と「-ish」の相関関係が成り立つためには、以上のような共通の意味特性及び基体の品詞、主観的価値判断それに結びつく基体の意味成分の直接性もしくは

比喩性が一致しなければならない。これらの諸要素がすべて一致する確率はそう高いとは思えない。また形式的には相関関係が成り立っても、両語の使用頻度の差、及び英語と日本語の語彙化フィルターの違いに基づく意味の差などの故に、実質的な等価関係にあるとは言い難い例もある<sup>(8)</sup>。補遺に付した両接尾語の簡易対応表を見ても明らかのように、実質的に等価関係にある組み合わせがそれ程多くないのも、上で述べた諸要素が一致する確率があまり高くないことを示しているといえよう。

## 註

- (1) 影山太郎(1999)『形態論と意味』p.29参照、くろしお出版
- (2) 梅原敏弘『接尾辞-ishの機能と生産性について』p.4「英文学」第30号、2001、駒澤短期大学英文科、所収
- (3) 前掲論文、p.5
- (4) Quirk, et al 'Comprehensive Grammar of the English Language,' p.1553, Longman
- (5) 前掲論文、p.13
- (6) 「熱っぽい」に関しては feverish という-ish対応表現があるが、feverishにはプラス評価の「熱っぽい」が意味する「情熱的な、一生懸命な」という意味はない。
- (7) peacockish と blockish はそれぞれ 'ostentatious like a peacock', 'dull or stupid like a block'の意味であろうが、パラフレイズした表現が直喩であるのに対し、peacockish と blockish は暗喩である。
- (8) 例えば、「俳優っぽい」と形式的に対応するのは actorish である。しかし「俳優っぽい」は「俳優のような感じの」という意味であるのに対し、actorish は「芝居がかった、わざとらしい」というマイナスの主観的意味をもった語であり、両語は形式的には対応しても、実質的な対応関係にあるとは言い難い。

## 使用辞書

OED: The Oxford English Dictionary on Compact Disk, Second Edition Oxford

RHUD: Random House Unabridged Dictionary. Second Edition, CD-ROM Version

Random House

Webster: Webster's Third New International Dictionary Unabridged; Merriam-

Webster Inc

CD-ROM版 リーダース プラス 研究社

CD-ROM版 ランダムハウス英語辞典 小学館  
スーパー大辞林 三省堂  
広辞苑 第4版 マルチメディア版 岩波書店  
研究社和英大辞典 研究社  
NEW 斎藤和英大辞典 研究社

**補遺：**

「-っぽい」と-ishの簡易対応表

（主に研究社和英大辞典及びNEW 斎藤和英大辞典を参照して作成）

1. 見出し語化されている「-っぽい」表現に対応する英語表現

基体が名詞：

[マイナス評価]

哀れっぽい： plaintive; pitiful; piteous; doleful; mournful; mawkish.

気障っぽい： affected

愚痴っぽい： querulous; grumbling.

¶ 愚痴っぽい人 a grumbler; a querulous [peevish] person.

子供っぽい： childish

湿気っぽい： dampish

俗っぽい： vulgar

熱っぽい： feverish

埃っぽい： dusty

骨っぽい： [骨の多い] bony fish》； [手ごわい] hard to deal with; tough  
《opponent》 .

水っぽい： watery ; (wishy-) washy 《tea, soup》 ; sloppy 《food》 . ;  
waterish

¶ 水っぽい酒 watery [washy] liquor ; wish-wash ; slipslop.

¶ このスープは水っぽい。 This soup is mere wash

理屈っぽい： argumentative; captious; disputatious.

¶ あの男は理屈っぽくて困る。 He is too much of a controversialist.

[プラス評価]

婀娜っぽい： coquettish, charming, bewitching, enchanting, captivating, fascinating, ravishing, voluptuous (beauty, etc.)

色っぽい： amorous; voluptuous; erotic; coquettish; fascinating; seductive; sexy.

艶っぽい： romantic; spicy; racy; piquant; amorous; coquettish.

艶っぽい声 a creamy voice.

艶っぽい話 a love story; a racy [an amorous] story.

骨っぽい： spirited; mettlesome

熱っぽい： fervent; warm.; zealous; enthusiastic

[中立評価]

大人っぽい： mannish, adultlike? precocious, ? manlike

基体が動詞：

[マイナス評価]

飽きっぽい： be fickle; be capricious; get soon tired [wearied] 《of》 .

彼は飽きっぽい。 He can stick to nothing. / He wearies easily.

怒りっぽい： excitable; irritable; irascible; resentful; ? peevish; querulous; petulant; splenetic; passionate; testy; touchy; tetchy; choleric; eppery; cranky; crusty; feisty; snappish; waspish; snippy; hot-[quick-, short-, ill-] tempered; quick to take offense; liable to lose one's temper [get angry].

湿っぽい： [陰気な] gloomy; dismal; depressing; funereal.

咽っぽい： choking; stifling; stuffy; suffocating.

忘れっぽい： forgetful (of things) ; apt to forget; have a bad [poor, short] memory.

[プラス評価]

[中立評価]

惚れっぽい : fond (nature) ; soft (heart, etc.)

湿っぽい : [湿気のある] damp; dampish; humid; moist; wet.

基体が形容詞 :

[マイナス評価]

青っぽい : [未熟の] unripe; green; [経験不足の] green; inexperienced.

荒っぽい : wild; violent; rude; rough; rough-mannered; 《俗》 knockabout  
《performance》 ; [粗雑な] rough; unsubtle.

粗っぽい :

蕨辛っぽい :

えがらい え辛い, e 〔garappo〕 i え辛っぽい a. 《S》 acrid; pungent; biting  
to the taste.

安っぽい : cheap (-looking); ? cheapish; mean; insignificant;

[安びかの] tawdry; gaudy; flashy; gimcrack (y); gingerbread.

安っぽい品 trumpery; finery.

皆安っぽい品物だ。 These goods are not up to much.

苦っぽい : bitterish

[プラス評価]

黒っぽい : 玄人(クロウト)らしい。「一・くなつてきたな／歌舞伎・小袖曾  
我」

[中立評価]

青っぽい : bluish

黒っぽい : blackish; dark

白っぽい : whitish

茶っぽい : brownish



## 2. 見出し語化されていない「-っぽい」表現

### [マイナス評価]

いたずらっぽい： ～na a. mischievous; naughty; roguish; prankish; full of tricks [mischiefs] ; impish; monkeyish.

いたずらっぽい眼で with mischievous [impish] eyes.

少年っぽい： boyish

素人っぽい： amateurish

女っぽい： womanish

男っぽい： mannish

粉っぽい： ?

不良っぽい： 不良の [悪者の] wicked; [墮落した] delinquent; depraved.

### [プラス評価]

玄人っぽい： professional ; \*professionalish, \*expertish

### [中立評価]

夏っぽい： summerish

先生っぽい： schoolteacherish (こうるさいの意) ; \*teacherish;

銀行員っぽい： bankerish (銀行員のように保守的な)

商売人っぽい： merchantlike \*merchantish

運動選手っぽい： sportsmanly, sportsmanlike ; \*athletish, \*sportsmannish;